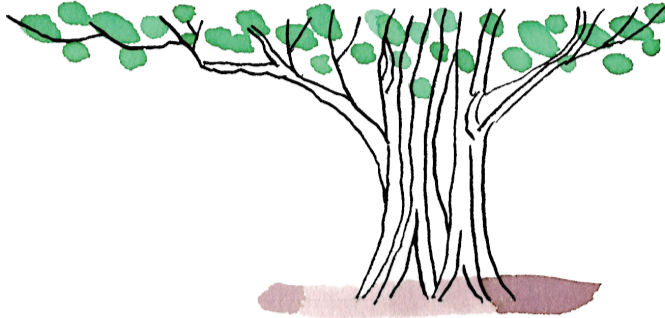


# チャレンジしなければ そこで成長は止まってしまう。 経験を増やして「幹」を太くしよう!



●10月は三和サービスにとって節目の決算月ですね。

社長 10月は指定管理施設の公募が出る時期でもあり、当社にとつては大事な時期。岐阜県内外の我々にとつて新規の施設にも挑戦する予定で、現在、懸命に取り組んでいるところです。



10月は株式会社三和サービスの決算月。11月からは2期を迎えます。今号は林正和社長のインタビューをお届けします。「チャレンジしないと始まらない!広がらない!」という姿勢は、三和グループ全体にも通じるテーマです。組織の一員としての誇りを持って頑張ってくださいませ。

●今年の夏は格別暑い日が続きました。

社長 そのとおりですね。本当に暑かった!現場の皆さんから、体が慣れているので大丈夫という声も聞こえましたが、大変心配した夏でした。酷暑のなか、皆さんには体調管理をしながら、仕事を進めてもらうことができました。本当にありがとうございます。

三和グループ社内報「ブライテス」2023 秋号

株式会社三和サービス

三和道路維持株式会社

株式会社エイチ エム エス

サンワ警備保障株式会社

<http://www.group-sanwa.co.jp>

90

さまざまにサーチをするのは当然のことで、インターネットで調べた情報なども重要ですが、これまで我々が直接体験してきた得られたもの、独自のノウハウや知識を提案内容に盛り込みたいと思っています。

長年やっている、本当に成功したと言えるか?というところもわかるといいですか、成功例、失敗例も増えていくわけで、事例を活かせるのが強みです。

また、実績があると信頼していただけることはありがたいことで、たとえば成功例は、私たちに對する信頼、私たちが起用することへの説得力にもなると自負しています。

●今後も挑戦を続けていくということですね。

社長 もちろんです。いろんなものにチャレンジした積み重ねが会社の財産。何もしないということは止まっているのと同じで、個人としても会社としても成長しません。指定管理施設に限らず、商業施設、観光施設、病院、ホテルと施設は多様にあり、それぞれ難しいと言っているのは永遠にできません。好き嫌い、得手不得手をなくして、何にでもチャレンジしないと!

失敗したら、何がダメだったのかを検討するチャンスにもなる。これからの機会があれば、とりあえずやってみる。そこから、結果が良いか良くないかを見極めていきたいと考えています。

●社長はつねに社是の言葉を大切にされています。

社長 そういえば、インタビューでは毎回お話ししていますね(笑)。私は、会社について考える時、社是である「三和は人々に、美しさと快適さと安全を提供できる優しい人間環境の創造の演出者である」に立ち戻ります。私たちの存在意義は、この社是に尽きると思っています。

私たちは何のために仕事をしているのか?と問うと、生活のため、お金を稼ぐため、人によっては健康維持のためという場合もあるでしょう。確かに、現場では立ち仕事が多く、広い場所をよく歩き回りますからね(笑)。それも良いことです。

しかし、それだけでなく、何のために仕事をするのか?という問をもっと深く考え、その答えを導くには、会社や働く自分自身の存在意義が重要と気づきます。

●自分や会社の存在意義を見つめる必要がありますね。

社長 三和は何の集まりか、何のための企業かと考える。すると、世の中の人々が利用する施設を美しく、快適に使えるように、衛生的で安全であるように、「環境」を創っているんだと…。

そういう環境を創り出している組織の一員であると気づけることが大切で、自分たちの自覚、責任、誇りを持つてほしいと。私は、それが長続きの秘訣になると考えています。

我々の仕事は良い環境を創ること。そして、それは利用する人々に喜んでもらうためにやっている。このように思わないと、手抜きになりかねません。手を抜く、抜かないということは、世間からの評価にもつながりません。これは、現場に立つ人こそ、実感することが多いのではないのでしょうか。

●評価は、サービス業の根幹になりますね。

社長 「三和さん、丁寧なやってくれるよね」とお客様から言われると素直にうれしいものですよ。私も施設のリーダーを通して、そのようなお声を聞かせていただくことがあります。

でも、現場の皆さんならもっと「うれしい!」「頑張った良かった!」「あるいは「こうしたら良かった!」と思うような実体験があるのでは?私もそういうリアルな声を聞きたいし、そういった声をグループ全体で共有できるような機会があったらと思っています。たとえばこの社内報「ブライテス」にそういうコーナーがあってもいいですね。

●なるほど!そうですね。

社長 さまざまな現場で働く仲間の頑張っている様子がわかるような方法があれば…。勤続年数の節目の年にあたる人を表彰をして、労をねぎらうのと同時に、一人一人にスポットライトがあたるような機会をつくりたいとも考えています。

●最後に一言、お願いいたします。

社長 良い環境を創る、という私たちの仕事は大変な面も多いけれど、必要とされている仕事、長く続けていく仕事でもあります。経験値を増やして大きくする、幹を太くしていけば、安心して働ける会社に育っていきます。三和は「人」が商品であり、宝。気持ちよく働いてもらいたいと心から思っています。

そして繰り返しますが、何がチャンスになるかはわからない。いろんな人に接し、いろんなことに挑戦するのには無駄はありません。やらないと、それ以上の成長はないと考え、共に歩んでいきましょう。



### SANWA REPORT 全社員会議 令和5年8月10日(木)開催

昨年は、①サービスに直結する教育面やサービス面は最新のものに変えてください。

②会社の基本理念を理解し、お客様の声を聞いて経営に活かしてください。

③三和社員として自信と責任と誇りをもって行動してください。とお願いしました。

今年は、新規も増えているが無くなっている仕事もあるとお話しました。このことは、②のお客様の声を聞くことができてなかったからだと思っています。岐阜県中濃地域で3次救急を担う基幹病院の契約が今年3月で解約になりました。それは、お客様からクレームがあったにも関わらず、クレームとして捉えていなかったのが原因です。受け止め方ひとつで、契約が「継続か」「解約か」につ

## 会社や自らの枠に閉じこもらず、チャレンジを。

社長訓話：株式会社三和サービス / 林 正和

ながる。こういうことを無くすためにも自身の「枠を広げる」ことに取り組んでください。

皆さんは、会社の枠だけで情報を判断しているのではないのでしょうか。ビルメン会社だから、清掃・設備・警備以外のことに耳を閉ざして自ら枠を狭めているのではないですか。それと、自身の枠を決めて(自分の経験値だけ)新しいことにチャレンジできていないのではないのでしょうか。自身の枠は、自分の常識で形成されていて、枠の中は経験済みで安全なところ、枠の外は未経験で怖いところと感じているかもしれません。しかし、枠の外に踏み出す勇気が必要であり、新しいことに挑戦することで次のステップへとつながり、次のステップがあれば自分自身も成長し、幸せになり、会社も成長することになります。

枠の外は怖いところ経験のないところだから、下調べが必要で、情報収集が必要になってきます。ただ、現代人が1日に触れる情報量は江戸時代の1年分といわれています。「調べた・聞いた＝自分で考えたこと」では、失敗してしまいます。しかし、失敗も枠を広げることになります。自身の枠を超えるのは怖いかもしれませんが、得た情報の整合性や疑問を解決することで理解した情報として、新しいことに挑戦してください。

自身の枠を広げることに成功すれば、視野が広がり、やる気と余裕が持て、いろんなことが有益な情報として捉えることができます。そして、次の行動に移すことで正のスパイラル(好循環)を形成できます。これにより会社全体の枠も拡大し、良い方向に向かうことが出来ると信じています。

# サンワのWw!

作/三室よしこ No.19



## SANWA GROUP TOPICS



## HELLO!! NEW STAFF

入社3ヶ月未満の三和サービスで頑張ってくれている皆さんです。未経験の仕事に取り組む方、動物相手に危険な作業をする方、新規の現場で清掃を行なう方働く場所は違えども新しいことに取り組む姿勢はとても微笑ましく思います。今回は、9名(高木さん、倉間さん、丹羽さん、横井さん、梅田さん、光家さん、小倉さん、渡辺さん、浅野さん)の方をご紹介します。担当の私も皆さんの意見も取り入れながらより良い職場づくりに今後も励んでいきます。皆さん今後の活躍を期待しております!



## 指定管理施設SNS紹介

指定管理施設ではSNSを活用し、利用者との繋がりを広めるために役立てています。ぜひ、各施設のSNSを

岐阜県科学技術振興センター(テクノプラザ) kagaku.techno Instagram QR code. 岐阜市リフレ芥見 @refle\_akutami X QR code. 大野町総合市民センター @oono\_ch\_tl X QR code. 中山道愛知川宿街道交流館 愛知川ふれあい本陣 fureaihonjin Instagram QR code. 三田洞神仏温泉 shinbutuspa Instagram QR code.

## 給与明細書の電子化について

給与明細書の電子化に伴うメールアドレスの登録について、在職中の従業員及び新しく入社された方が新規に給与明細書の電子化に同意してメールアドレスの登録を新規に申請する場合、R5.11月、R6.2月、R6.4月の月末ごとに申請のあったメールアドレスへ、翌々月にテストメールします。翌々々月から給与明細書を電子で配信します。具体的なスケジュールは次のとおりです。

【メールアドレス申請日】  
2023年11月末→配信対象:2024年1月テストメール、2024年2月から給与明細書電子化

【メールアドレス申請日】  
2024年2月末→配信対象:2024年4月テストメール、2024年5月から給与明細書電子化

在職中の従業員は、2024年4月末が最終受付となります。→配信対象:2024年6月テストメール、2024年7月から給与明細書電子化、6月は紙の給与明細書を発行し手数料無料となります。

## 私もできる!!

## SDGs



自分の身に置き換えて、行動を。

まずは、身近な災害対策をしよう。

SDGsの目標の中には防災を意識した項目があり、それに対する取り組みを行っていくことで、災害による被害を最小限に抑えられる可能性があります。今回は今すぐできるSDGsの取り組みとして「防災対策」をご紹介します。

これは17の目標の中で目標11「住み続けられるまちづくりを」、目標13「気候変動に具体的な対策を」に関係してきます。

日本はもともと台風や地震などの災害が多い国ですが、近年集中豪雨や大型台風、地震などが何回も発生し、今までにない大きな災害が増えてきています。

このような台風や豪雨はいつどこで発生するか、わかりません。「自分の住んでいる場所で大きな災害が起こったら、どうしたらいいのか」と自分の身に置き換えて考え、備えておくことがとても大切です。

身近な災害対策を一部ご紹介しますので確認してみてください!

## 一人ひとりができる身近な災害対策

■家の中の災害対策  
家具や家電は倒れる危険性があります。器具や金具で固定することで転倒を防止。倒れてもぶつからない位置や、出入り口をふさがない位置に置くなど、向きや配置を工夫しましょう。

■飲料水や食品を備蓄  
飲料水は1人1日3リットル、食品は1人1日3食分を目安に3日間分用意しておくことが理想とされています。そのまま食べられるレトルト食品などがあると安心です。

■避難に備えて非常用持ち出し袋を準備  
避難所へ移動することを想定し、非常用持ち出し品をまとめておきましょう。安全に避難できるような避難所で使う最低限のものにしようのがポイントです。

■安否を確認する方法を決めておく  
災害時は電話が繋がりにくくなります。家族が別の場所にいる時に災害が起きて安否が確認できるよう、連絡方法を話し合っておくことが大切です。災害時の安否確認には、「災害用伝言ダイヤル(171)」や携帯電話で使える「災害用伝言板」の利用が推奨されています。

■最寄りの避難所や避難経路を確認しておく  
国や自治体が公開しているハザードマップでは、地域ごとの被害の予測と、避難場所や避難所の位置などを地図で確認することができます。自分の住んでいる地域のハザードマップをよく確認しておきましょう。

## 知っとこ! DX AI? 使って試そう生成系AI

近頃のニュースの中で、生成系AIという言葉が聞く機会も増えて耳に馴染んできたのではないのでしょうか。生成系AIとは、膨大な量のデータを学習させた人工知能の一種です。会話をすることはもちろん、画像、音楽、動画など新しいコンテンツやアイデアを作成することができ、マーケティング、カスタマーサービス、財務、営業など、あらゆる事業分野において今後の発展に重要な役割を担っています。スマートフォン向けのAIアプリもたくさん登場しており、上手く利用すればとても便利で優秀な助手として、仕事の効率アップやプライベートの充実など、私たちに欠かすことのできない身近な存在となりつつあるAIですが、皆様はもう利用していますか。代表的なところでは、チャットGPT-4、Google Bird、Bing AIなどがありますが、どれも普通に人と人が会話するような言葉でやり取りすることができるので、とても使いやすくなっています。また、AIはそれぞれが異なる特徴と強みを持っているので、使う人のニーズに応じて適切なAIを選択することが重要です。まだ利用したことがない方は、いろいろ試してみたい方の頼れるAIを見つけてみてはいかがでしょうか。

2023年最優秀作品賞  
労働安全衛生標語  
危険箇所  
見つけた時に すぐ対応  
職場の安全無災害

## ◆◆◆ 編集室から ◆◆◆

皆様おげんきですか?今年暑かった時期が長かったですね。やっと秋が訪れました。おいしい秋の季節!楽しみですね!

さて、皆様のご協力のおかげで給与明細書電子化が着実に進んでおります。限りある資源を一人一人の努力によって地球そして未来の子供たちのためにお願いいたします。

今年のように猛暑期間が長くないようにするためには自分は紙で貰えばというのではなく未来の地球、子供たちのために協力してください!お願いいたします。

三和グループ社内報 2023年 秋号(令和5年10月25日発行)  
発行所 株式会社三和サービス  
本社/〒500-8286 岐阜市西郷1丁目52番地  
電話/058-273-5653(代)

Brightness



本紙は環境に配慮した原材料を使用しております。